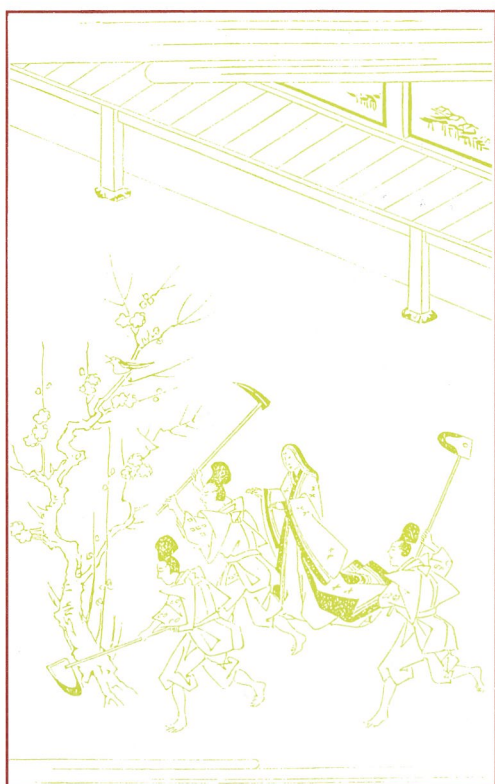
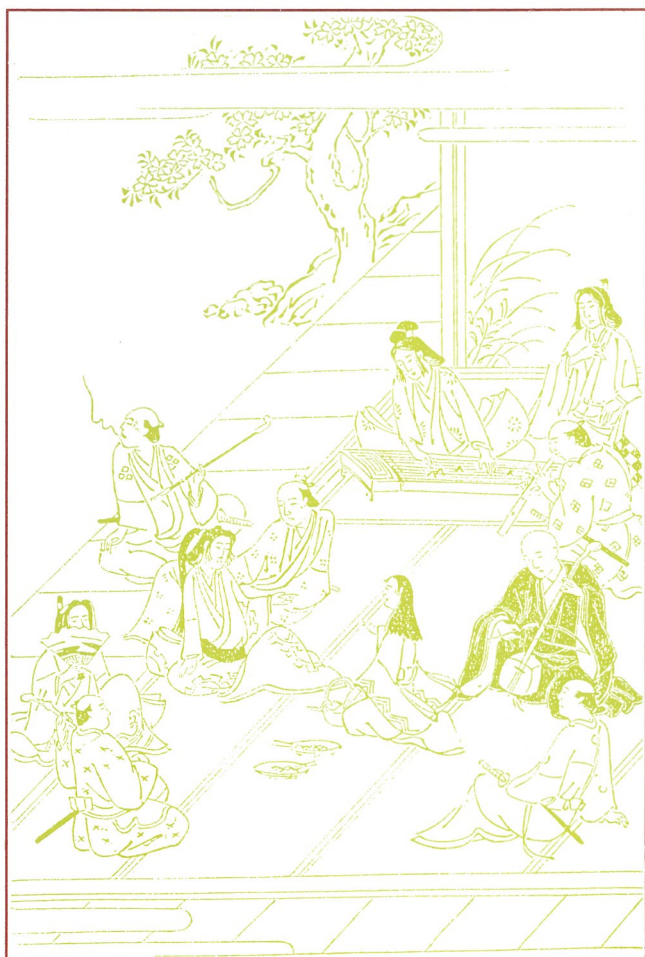


明治末から昭和戦後初期の仮名草子研究の文献を編集復刻。

仮名草子研究叢書

全8巻

深沢秋男・菊池真一 編・解説



クレス出版

刊行にあたって

深沢秋男・菊池真一

近世初期の約八十年間に書かれ、多くは出版された散人文芸の総称が仮名草子である。「仮名草子」の命名者は水谷不倒(弓彦)である。水谷は、東京専門学校(早稲田大学の前身)での講義録を著し、続いて、『近世 列伝林小説史』を出版、さらに『新撰 列伝体小説史 前編』を出して、この中で仮名草子について論じた。近代的な研究も水谷不倒によって拓かれた、と言ってもよいだろう。もちろん、水谷不倒のみが、仮名草子の研究を進めてきた訳ではない。昭和二十年代以前に限ってみても、朝倉治彦・麻生磯次・石田元季・市古貞次・井浦芳信・頼原退蔵・片岡良一・近藤忠義・重友毅・新村出・鈴木行三・鈴木敏也・鈴木暢幸・関山和夫・高野辰之・暉峻康隆・長澤規矩也・中村幸彦・野田寿雄・深沢正憲・藤井乙男・藤岡作太郎・藤村作・北条秀雄・松田修・山口剛・山崎麓等々、多くの先学の努力が積み重ねられてきた。その研究論文・研究書と作品名の全貌は、『仮名草子研究文献目録』(深沢・菊池編、二〇〇四年、和泉書院)によって知る事ができる。仮名草子作品の数も、昭和三十年頃までは二百点足らずであったが、その後の研究によって、現在は三百点以上になっている。このようにみる時、仮名草子研究は活発に行われてきたように思われるが、明治以後昭和二十年、つまり、近代的な研究が始まってから、第二次世界大戦終結までの約四十年間に書かれた論文は一二〇点余に過ぎない。年間平均三論文という状況であった。戦後の研究は、昭和二十二年の野田寿雄の『仮名草子の世界』(『国語と国文学』7月)から始まるが、二十二年から三十五年までの十四年間に七十四論文という低迷が続いた。ところが、三十五年から七年にかけて、野田寿雄の日本古典全書『仮名草子集(上・下)』が刊行されて、研究は活発化してきた。『仮名草子研究叢書』は、雑誌論文は、昭和二十九年以前のものを全二巻に収録し、単行本は昭和二十年以前のものを全六巻に収録したものである。近年の仮名草子研究は、細分化され、緻密な論文が多い。しかし、明治以降の先学の遺された研究が全く通用しなくなった訳ではない。むしろ、このように細分化され、徹視的な傾向にある現在こそ、明治以来の研究を振り返り、巨視的な観点から、仮名草子を見直し、先人の研究を吸収して、新たな研究の出発点にすべきではないかと考える。本叢書を刊行する所以である。

第1巻 雑誌論文集成(一)

- 高野 斑山 徳川初世の名所記
三浦 周行 後光明天皇の御好學と朝山意林庵
此花社同人 江戸出版の仮名草紙
水谷 不倒 仮名草子の挿絵と雛屋立圃
林若樹ほか 輪講 東海道名所記
島津 久基 御伽・仮名・舞の草子
山本 秀煌 切支丹文学の一斑
石田 元季 初期の仮名草紙作者殊に如備子に就きて
林若樹ほか 輪講 あづまものがたり
田中 喜作 師宣の初期絵入本に就て
新村 出 伊曾保漫筆
新村 出 影模蘭文古版絵入伊曾保物語の断簡
久保 天隨 翦燈新話に就いて
頼原 退蔵 近世文学選釈 一 恨の介
田中 浩造 伽婢子の翻案態度
頼原 退蔵 近世文学選釈 二 尤の双紙
北条 秀雄 浅井了意の生涯
森 銚三 可笑記の著者如備子は何人か
頼原 退蔵 近世文学選釈 三 東海道名所記
頼原 退蔵 仮名草子の發生に關する一考察
頼原 退蔵 近世文学選釈 四 可笑記
北条 秀雄 浅井了意の自筆願書
頼原 退蔵 近世文学選釈 五 元の木阿弥物語
城戸甚次郎 緑蔭比事
頼原 退蔵 近世文学選釈
六 たきつけ草・もえくひ・けしずみ
天野佐一郎 石平道人の墓
木村 捨三 複製木版の工作過程に就て
大越 長吉 仮名草子研究序説
岡井 慎吾 主として、その擬物語を中心とせる
佐藤 鶴吉 石平道人鈴木正三が神として祀られて居る
頼原 退蔵 近世文学の註釈に就いて
野村 八良 近世文芸の註釈的作業
尤の草子

第2巻 雑誌論文集成(二)

- 宇佐美喜三八 伽婢子に於ける翻案について
重友 毅 近世小説研究史略
頼 桃三郎 『難波鉦』の地位
朝田祥次郎 仁勢物語成立に就いての私見
安部 亮一 『可笑記』覚書
岡本新太郎 『醒睡笑』と裁判物
長沢規矩也 『怪談全書』の著者について
熊谷 孝 仮名草紙小論
市古 貞次 艶書小説の考察
後藤 丹治 お伽草子と後代文学
杉浦正一郎 『犬枕』に就いて
斎藤 護一 江戸時代に於ける支那小説翻案の態度
頼原 退蔵 近世怪異小説の一流流
長沢規矩也 『怪談全書』著者統考
片岡 良一 仮名草子の輪郭
野田 寿雄 浮世物語の意義
暉峻 康隆 仮名草子の文芸性
鶴見 誠 名所記概説——名所親に及んで——
波多都太郎 醒睡笑の研究
岡田 希雄 東海道名所記について
——製作年時および京童との関係など——

第3巻 単行本記述集成(一)

- 水谷不倒・坪内逍遙 『近世 列伝林小説史』上巻 第一、二章
坂本 健一 『近世俗文学史』第一、二章
朝倉 無声 『日本小説書目年表』仮名草子
藤岡作太郎 『近代小説史』部分
津田左右吉 『文学に現はれたる我が国民思想の研究』
第二巻 武士文学の時代 武士文学の後期
第三巻 平民文学の時代 平民文学の隆盛時代

第4巻 単行本記述集成(二)

- 藤井 乙男 『江戸文学研究』部分
藤岡作太郎 『国文学史講話』江戸時代
藤村 作 『上方文学と江戸文学』武士生活と町人生活
高須芳次郎 『日本近世文学十二講』
第二講 文芸復興期前の文学
水谷 不倒 仮名草子研究
鈴木 敏也 『改訂 近世日本小説史』部分

第5巻 単行本記述集成(三)

- 石川 巖 元禄以前の花街文学
山口 剛 『怪談名作集』解説
山口 元季 『江戸時代文学考説』部分
新村 出 怪異小説研究
南蛮文学概観
笹川 臨風 『仮名草子集』解題
高野 辰之 『江戸文学史』部分
水谷 不倒 『新選 列伝体小説史 前編』部分
山崎 麓 『日本小説書目年表附録目録』
例言、徳川時代 仮名草子

第6巻 単行本記述集成(四)

- 笹川 種郎 『近世文芸史』上方の小説
藤井 乙男 『江戸文学叢説』浅井了意、お茶物語
鈴木 暢幸 『江戸時代小説史』部分
長沢規矩也 『江戸地誌解説稿』部分
頼原 退蔵 仮名草子
鈴木 行三 『戯曲小説 近世作家大観』第一巻部分
頼原 退蔵 『日本文学書目解説(五)』上方・江戸時代』
山口 剛 怪異小説研究
藤井 乙男 仮名草子の研究
宮川 曼魚 咄本の研究
次田 潤 『国文学史新講』仮名草子
頼原 退蔵 仮名草子の三教一致的思想について

第7巻 単行本記述集成(五)

- 近藤 忠義 『近世小説』
暉峻 康隆 『江戸文学辞典』凡例、江戸小説概観、仮名草子
片岡 良一 『近世前期の文学』部分
暉峻 康隆 『文学の系譜』仮名草子の文芸性
頼原 退蔵 『江戸文芸』部分
守随 憲治 仮名草子と生活文化
深沢 正憲 烏丸光広伝 附作品解説
井浦 芳信 古活字本『竹斎』の研究
——仮名草子における流動性——
深沢 正憲 目覚し草(翻刻)解説
宮尾 重男 『近世笑話文学』天和年間〜元和年間
暉峻 康隆 『日本の書翰体小説』第三、四章
重友 毅 『近世文学の位相』第一、三篇
麻生 磯次 『江戸文学と支那文学』総説、前編第一章〜第二章
次田 潤 『日本文学通史』仮名草子と浮世草子
藤井 乙男 『近世小説研究』一〜三

第8巻 単行本記述集成(六)



仮名草子研究叢書 全8巻

深沢秋男（元昭和女子大学教授）・菊池真一（甲南女子大学教授）編・解説

- 第1巻 雑誌論文集成（一）
- 第2巻 雑誌論文集成（二）
- 第3巻 単行本記述集成（一）
- 第4巻 単行本記述集成（二）
- 第5巻 単行本記述集成（三）
- 第6巻 単行本記述集成（四）
- 第7巻 単行本記述集成（五）
- 第8巻 単行本記述集成（六）

A5判／上製函入／クロス装／本文クリーム中性紙

揃定価85,000円（税別） ISBN4-87733-315-0（セット） 平成18年2月末日刊行

御伽草子研究叢書 全9巻

藤井 隆 編・解説

- 第1巻 古注釈と文学史書集
 - 第2巻 研究書集成Ⅰ 室町時代小説論
 - 第3巻 研究書集成Ⅱ 島津久基集
 - 第4巻 研究書集成Ⅲ 島津久基・後藤丹治集
 - 第5巻 研究書集成Ⅳ 講座、雑誌特輯集
 - 第6巻 解題書集成Ⅰ 近古小説解題
 - 第7巻 解題書集成Ⅱ 未刊中世小説解題
 - 第8巻 解題書集成Ⅲ 室町時代物語集第一～第四
 - 第9巻 解題書集成Ⅳ 室町時代物語集第五ほか
- 揃定価80,000円（税別） ISBN4-87733-197-2（セット）

説話文学研究叢書 全八巻

黒田 彰・湯谷祐三 編・解説

- 第一巻 国民伝説類聚 前輯
- 第二巻 校訂広本 沙石集
- 第三巻 校註 沙石集
- 第四巻 孝子説話集の研究 二十四孝を中心に 中世篇
- 第五巻 孝子説話集の研究 二十四孝を中心に 近世篇
- 第六巻 孝子説話集の研究 二十四孝を中心に 近代篇（明治期）
- 第七巻 岡田希雄集
- 第八巻 小林忠雄集

揃定価94,000円（税別） ISBN4-87733-240-5（セット）



株式
会社

クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ㊚03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>